

令和3年度 学 校 評 価 報 告

草加市立谷塚中学校

(令和4年1月31日作成)

1 学校教育目標 ○学び合う生徒（知） ○思いやる生徒（徳） ○高め合う生徒（体） 校訓「文武両道」	
2 重点目標・努力目標 1 信頼される学校 2 確かな学力の育成 3 豊かな心の育成 4 健やかな体の育成 5 教育課程の改善	3 前年度の成果と課題 成果 ○学習指導では、学校全体で研究に取り組んだ。県力学習状況調査の結果を分析し、課題解決に向け、研修をして、授業実践に取り組んだ。学び合い・発表活動の充実、生徒の学習意欲の向上につながった。 ○学校行事では、生徒が主体的に活動に取り組み、学校行事を感染症予防に注意を払いながら、意欲的に取り組むことができた。 課題 ●家庭学習に大きな課題が見られた。生徒の学習意欲の向上に努め、日々の授業改善や学習を促す工夫など、研究を深めていく。 ●コロナ禍により、学校公開や授業参観など保護者・地域との交流が中止となってしまった。今後、できる内容を検討し、実施をしていく。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学 校 運 営 に 関 す る も の	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○限られた行事等ではあったが、学校全体で協力して取り組めることができた。 ○分掌の偏りが減ってきている。また、学年間で協力する場面が増えた。 ●負担のある分掌が一部の職員頼みのところが見受けられた。学校全体で組織的に関わりを持つようにしていく。 ●教員の人数が多く、全体周知の徹底が難しい場面があった。担当任せにせず、情報を共有して、学校全体で組織的に対応にあたる。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○長研・在外派遣の報告など、学校の推進力となる先生方からの研修を行い、教育活動を改めて考えるよい機会となった。 ○小学校の研究授業への参加や、道徳の抜本的な改善、評価・評定など外部の方の研修を通して、授業改善の機会となった。 ●本校の学校の実態や職員の実態に即した研修を計画的に取り入れていく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○朝の健康観察の徹底など、感染防止対策は十分に取れた。 ●授業でのけが人が多かった。安全面での配慮を踏まえた授業を見直し実践をしていく。 ●定期的な安全点検や登校指導が不十分であった。施設や登下校等の安全のために、綿密に計画を立て実施していく。

④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットPCの初期不良など、素早く対応ができた。 ●タブレットPCは多くの場面で活用されているが管理には課題が見られた。よりよい管理の仕方を考え、全体で共有をしていく。 ●施設の老朽化が依然としてある。市教委と連携しながら、計画的な修繕を進めていく
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校HPの定期的な更新やリニューアル、学校便りなど各種便りやメール配信を通じて情報を発信した。また、日程の急な変更についても、速やかに情報をメールや通知文で連絡をすることができた。 ●コロナ禍により、保護者・地域との交流ができていない。今後、できる内容を検討し、実施をしていく。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍ではあるが、小学校でのあいさつ運動や指学校区での相互の授業での参観の他に、合同での引き取り訓練、部活見学など今年度から実施できたものがあつた。 ○小学校の先生含めたクラスルームを作成して、中学校の教員が動画を配信して、小学校の児童が視聴して、近隣の小学校の児童に中学校のイメージを持たせることができた。 ●幼保小中での連携をより深め、交流活動を充実させ、各教科のカリキュラム等の編成につなげたい。

(様式2・中学校用②)

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットの活用等、多くの支援や指導ができた。学び合う・高め合う生徒が増えた。 ●急な行事の変更、中止等により、日程変更が多く、長期的な授業計画が難しかった。 ●各教科・領域の年間指導計画を見直し、15年間を見通した、谷塚中学校区の特徴のあるものにしていく。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ学年に複数の教員が指導する際、連絡調整や指導内容など足並みを揃えることができた。 ●今年度より新学習指導要領が全面実施となったが、指導と評価の一体化に課題が見られた。今後は学校全体で研修を深めていく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットPCの活用により、一人一人の心情を表すなど、指導の工夫・改善が図れた。 ●道徳教育を担当だけでなく、学校全体で取り組むことが必要である。 ●道徳を要として、学校全体で生徒の一人一人の心を育てていく。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会を実施する、教科横断的な視点を取り入れるなど、生徒会や生徒が主体となって取り組む活動が多く見られた。 ●学級経営が学校生活の基盤である。学級会を多く取り入れるなど、生徒一人一人の意見が言いやすい環境、認められる場面を作っていく。

⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○SDG s を取り入れるなど、社会問題を自分のことと捉える生徒が増えた。 ○学び合う場面が多く、発表にもタブレットPCを活用するなど、工夫が見られた。 ●地域との交流や校外学習がないため、体験活動が不足してしまっている。年間指導計画の見直しを図り、体験活動を充実させていく。
⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた学校が保てている。生徒指導の先生方を中心とした組織的な対応できている。 ○問題行動について、初期対応を迅速に行い、生徒指導担当、学年など組織的に対応することができている。 ●信頼される学校、教師となるために、教師としての身なりや立ち振る舞いを、今一度、学校全体で気をつけていく。 ●支援を必要とする生徒がいるため、個に応じた支援を組織的に継続して行っていく。 ●不登校生徒への個々の支援をさらに充実させる必要がある。学校全体で組織的に対応するだけでなく、必要があれば、外部との連携を図り、対応する。
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見通した指導で、生徒が主体的に見通して、進路選択をできることができた。 ●高等学校を始め、進路を実際に触れる機会が少なかった。 ●職業体験が中止となったため、職業についてどのように学習していくかを検討する。
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の実態把握をして、学級指導や学校行事を通して、個に応じた指導をすることができた。 ●生徒一人一人の適した支援が異なるため、学校全体での情報共有、校内での支援体制をより充実させていく。
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図書担当、図書委員が協力をして、掲示等の工夫により、昨年度と比較して図書館利用の生徒が大幅に増えた。 ●図書館の利用者が増え、掲示物等も充実しているが、騒がしく落ち着かないという声もある。だれもが過ごしやすい図書館を目指し、図書館教育を充実させる。
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットPCの導入により、授業を始め、教育活動の多くの場面で活用された。授業をリモートで学校に来られない生徒に配信することで、学校とつながりが持てた。 ●タブレットPCの管理では、教員個々の裁量での判断となってしまう場面があった。学校全体で共通理解を深めていく。
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権について研修や総合的な学習の時間等で人権について生徒が考える時間を設けるなど、教員・生徒の日々人権感覚を養うことができた。 ●人権のテーマは多くあり、谷塚中学校においても様々な課題がある。学校の実態に即して、人権について計画や研修、活動を考えていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり	○学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立 ・家庭学習の定着 ・指導法の工夫改善 	B	<p>○タブレットPC等を活用して、指導法の工夫改善が図れた。生徒同士の学び合う姿が多く見られ、発表の仕方にも工夫が見られるようになった。</p> <p>●新学習指導要領が全面実施となったが、指導と評価の一体化が課題である。学力向上に向けて、研修を重ねていく。</p> <p>●学校評価の家庭学習の項目では保護者・生徒ともに課題があるという回答であった。家庭学習の促進する手立てを今後も検討して、実施していく。</p>
	○学校間連携教育	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内小学校との連携、協力 ・近隣の地域の幼児との交流 	B	<p>○コロナ禍で中止となった行事もあるが、昨年に引き続き、近隣小学校（谷塚小、氷川小）とのあいさつ運動や授業参観について行うことができた。さらに今年度より、合同での引き取り訓練、6年生対象の部活見学を実施することができた。</p> <p>○小中合同研修会を通して、各教科での意見交換や重点目標を共有ができた。谷塚中学校区として、各教科で協力をして学力の向上に努めていく。</p> <p>●学校間連携の内容や諸調査からの課題を共有し、幼保小中を一貫した系統的な教育での研究を生かした実践を深めていく。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

学習指導では、タブレットPCの導入により、主体的・対話的で深い学びの実現にむけ、指導法が工夫された。生徒同士が学び合う場面が増え、発表の場面でも、タブレットPCを活用して、わかりやすい発表ができた。小中合同研修会での小学校の先生との研修や小学校との授業参観を通して、授業改善につながった。一方で、指導と評価の一体化には課題が見られた。また、家庭学習の促進を図ったが、保護者・生徒ともに家庭学習に課題があると回答が見受けられた。家庭学習の促進をより促していく。

学校行事は新型コロナウイルスの感染状況により、日程の変更や開催規模の縮小・中止等がある中であったが、各クラスや学年が団結して、一体感を感じられる行事ができた。学校運営協議会の方からは「感染防止に努めながら生徒一人一人が精一杯に取り組む姿が見られた」という言葉を頂いた。今後も感染予防に努めながら、生徒が主体となるような学校行事を開催していく。

落ち着いた雰囲気、学習や行事、委員会、部活動など意欲的に取り組む生徒が多い一方で、支援を必要とする生徒も数多くいる。個々の支援の仕方は異なるため、学校全体で組織的に継続的に支援を続け、生徒の一人一人の成長や自立につなげていく。本校の不登校は喫緊の課題である。不登校の生徒への個々の支援を継続する。不登校は学校全体での課題であり、どの生徒にも起こりうることでありと改めて認識をしていく。学級経営を基盤として教育活動全般を通して、生徒一人一人の居場所を作っていく。

6 次年度の改善策

学習指導では、指導と評価の一体化に向けて授業改善をしていく。そのために、各教科・領域の年間指導計画の見直しを図り、より本校の実態に即した計画を作成して授業をしていく。その中でICT機器の効果的な活用に取り組む。家庭学習の促進のために、取り組み内容を検討して学校全体で取り組んでいく。引き続き、授業力の向上のために、相互の授業参観、小学校への参観を引き続き行っていく。また行事や体験活動を感染予防に努めながら、可能な限り取り入れ、生徒の主体性を育てる。

生徒指導では、学級経営を基盤として、道徳教育の充実を図るなど、生徒一人一人に寄り添った指導・支援を組織的に行っていく。本校の不登校の課題については、年間を通して、研修を行い学校全体で不登校の課題の意識を高める。さらに、学級経営を基盤として、道徳教育を充実させ、体験活動を取り入れるなど、生徒一人一人の心を育み、居場所や活躍できる機会を作っていく。

校舎等の老朽化や修繕の必要な箇所については、関連組織と連絡を取りつつ、学校全体で教育環境整備や校内美化活動を推進して、整備及び改善を図っていく。